

## ホシガレイ種苗の放流について

ホシガレイは茨城県を含む北海道から九州にかけての日本沿岸に分布する、大型の沿岸性カレイ類の一種です。味が良く高級魚として知られ、高値で取り引きされる重要な漁獲対象種となっています。

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗(稚魚・稚貝)を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を行っています。ホシガレイは、「第8次栽培漁業基本計画(R4~8)」より新たに対象種として選定され、令和5年度から種苗放流を開始しました。

ホシガレイの種苗(図1)は鹿嶋市の茨城県栽培漁業センターで生産しています。今年は1月に孵化した仔魚を育成し、4月28日および5月20日にひたちなか市磯崎地先にて、4月23日および5月20日に鹿嶋市平井地先にて、それぞれ約6万尾、合計11.8万尾(平均全長46.3mm)の放流を行いました。



図1 ホシガレイ種苗

### 求む！ 標識ホシガレイ情報！

県では放流したホシガレイの追跡のため、種苗の体表に「パンチング」と呼ばれる手法で標識処理を行っています。パンチングとは、魚体の表面を小さくえぐり(図2)、その部分が再生すると通常よりも小さな鱗うろこ(小型再生鱗)に覆われ、通常 of 体表面とは異なる見た目(図3)になることを利用した標識方法です。さらに、放流年ごとにパンチングする場所や数を変えることで、何年に放流した種苗かを確認できるようにしています。

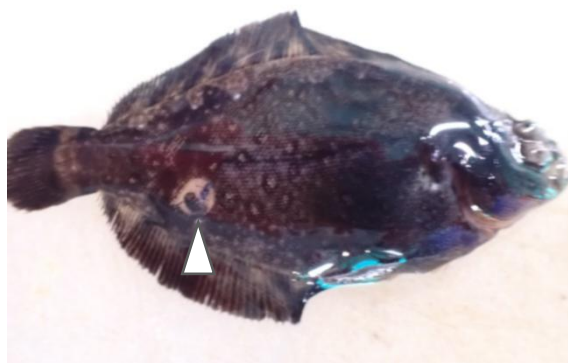


図2 パンチング直後のホシガレイ種苗  
(三角形がパンチングによってできた傷)

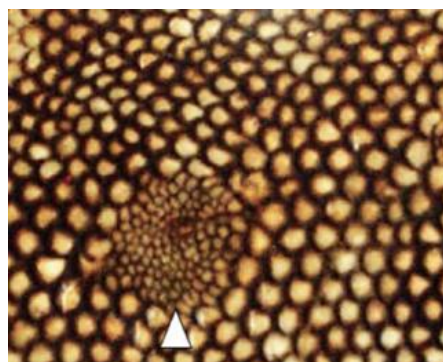


図3 パンチングから2年たった標識跡  
(after 清水ほか, 2013※)

水産試験場では次ページのポスターを関係各所に配布し、皆さまからの情報を募集しております。ポスター中の写真のような鱗やパンダ柄のホシガレイを見かけたら、ご一報をいただくと大変ありがたく思います。なお、ポスターに掲載された写真は久慈漁港に水揚げされたホシガレイで、パンチングの場所と数から令和5年度に放流された魚であることが分かっています。

今後ともホシガレイ放流および追跡調査にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

※ 清水大輔・藤浪祐一郎・青野英明 (2013) ホシガレイの小型再生鱗を指標とするパンチング標識の有効性. 日本水産学会誌, 79: 394-399.

(定着性資源部 外山太一郎)

【次回予告】R8.7.10 発行の水産の窓は、「海洋観測結果」を予定しています。

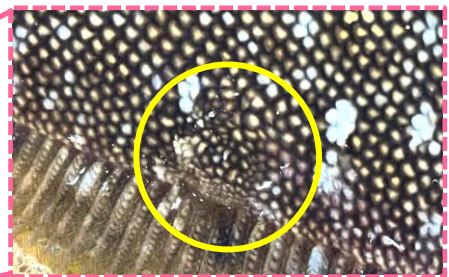
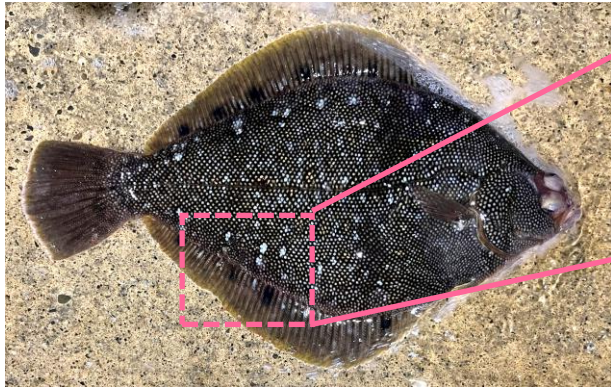


# ホシガレイ の放流個体

## 探しています！

写真のようなホシガレイを見かけたらご一報ください

### ●表側にパンチング跡※がある個体



※パンチングとは  
魚体の表面を小さくえぐる標識。傷が  
再生する際に通常よりも小さな鱗（再  
生鱗）に覆われ、放流個体と分かる。

### ●裏側が「パンダ柄」の個体



茨城県では、資源を増やすため、  
令和5年度よりホシガレイの放  
流を開始しました。効果を調べ  
るため、皆様からの情報提供を  
お願いしています。

採捕した場所・日付・サイズ（全長）・裏表両面の写真を  
下記メールアドレスまでお送りください。

[suishi@pref.ibaraki.lg.jp](mailto:suishi@pref.ibaraki.lg.jp)

お問い合わせ先：茨城県水産試験場 定着性資源部 ☎ 029-262-4157